# 豊田市中央図書館所蔵の挙母藩主内藤家旧蔵書について

## ——その受領の際の記録をめぐって——

明木茂夫

## はじめに

拙著『豊田市中央図書館の江戸期学芸書　—雅楽資料『山鳥秘要抄』とその周辺—』[1]に於いて私は、豊田市中央図書館貴重書庫に所蔵されている雅楽資料についての調査を行い、その内特に安倍季良撰『山鳥秘要抄（律呂）』の内容の分析を行った。それと共に、これら雅楽資料が挙母（ころも）藩主内藤家の旧蔵書であり、特に第四代藩主内藤政成（まさなり）がこれと深く関わっていたことも論じた。これらの雅楽資料はいずれも写本であるが識語は無いため、その書写者や旧蔵者を直接知る術は無い。但し、昭和三十二年（一九五七）に挙母市立図書館[2]が内藤家から書物を受領した際の記録、小栗鉄次郎編『挙母内藤家蔵書目録』にこれら楽書の一部が含まれていることからして、他の楽書についても同様に内藤家の旧蔵であった可能性は高い[3]。

これを踏まえた上での本稿の任務は二つある。一つはこの『挙母内藤家蔵書目録』（以下「小栗目録」と言う）

を現在の豊田市中央図書館貴重書庫の現物と照らし合わせて所蔵状況を確認すること、今一つは『小栗目録』を同貴重書庫所蔵『小笠原古伝書目録』の末尾に添付された「追記」（以下単に「追記」と言う）と照らし合わせて内容を検討することである。特にこの「追記」については、『豊田市立図書館和装本目録』[4]（以下「和装本目録」と言う）に於いて存在が知られているものの、これを小栗の目録と照らし合わせる作業は今まで行われていない。しかしこれが内藤家から書物を受領した際の記録であり、しかも内藤家旧蔵書の目録に直接添付されているものである以上、小栗の目録とこの「追記」の内容を一度相互に検討しておくことも、市立図書館の挙母藩旧蔵書収蔵の経緯を知る上で意味の無いことではあるまい。

## 一、小栗鉄次郎編『挙母内藤家蔵書目録』所載の書物の収蔵状況

この目録は小栗鉄次郎（一八八一～一九六八）の編集したもので、原本は豊田市郷土資料館の所蔵である。[5] 小栗は地元の小学校の教員や校長を歴任し、愛知県史蹟名勝天然記念物調査会主事となり、愛知県在職中から退職の後にわたって郷土の歴史研究や考古学調査、そして文化財調査・保護に大きな功績を残した人物である。特に挙母藩主内藤家の蔵書をめぐっては、小栗が当時の内藤家当主内藤政光（一八九一～一九六一）と学術的な交流があったこともあり、内藤の委嘱を受けて昭和三十年代に内藤家の蔵書や古文書が挙母市立図書館に寄贈される際に、その仲介や連絡・資料整理に力を尽くした。[6] これはまさにこの時作成された目録である。

さてこの『小栗目録』は全四頁からなり、冒頭に「内藤家送付のもの」「昭和三十二年一月」との鉛筆書きがある。掲載された書物には1から96の番号が付されており、末尾には小栗による書込み（後述）がある。内容的には武道

や武具に関する書物（『和装本目録』の11「兵事」、及び12「故実」の2「武家故実」）が多い。

『小栗目録』所載の楽書については前掲拙著で論じた。次に確認すべきは、その他この目録に収録された全ての書物の、現在の豊田市中央図書館に於ける収蔵状況である。この度『小栗目録』と図書館蔵書の照合が完了したので、以下やや煩雑となるが、『小栗目録』所載の書物を『和装本目録』の請求番号順に配列し、それぞれ小栗の付した番号、『和装本目録』の注記、及び明木による補足を添えて一覧表を作成した。補足の欄には特に、各書物の表紙に貼付された小紙片（以下「付箋」と言う）の番号、及び図書館により捺された受入年月日の楕円形スタンプ（以下「スタンプ」と言う）について記した。現在貴重書庫に収蔵されている書物には、「第○○号」と記された付箋が表紙に貼付されているものがある。この番号は基本的に『小栗目録』の番号と一致する。『小栗目録』にありながら付箋の無い書物もあるものの、この付箋の番号を確認すれば『小栗目録』にある書物の収蔵状況を確認することができる。またこれとは別に、「豊田市立図書館　受入」という文字と共に年月日の記されたスタンプも多くの書物に捺されている。これにより、内藤家から受領した書物が図書館に正式に登録された時期が確認できるわけである。

凡例

○以下は『小栗目録』所載の書物を、『和装本目録』の請求番号順に整理した一覧表である。

○各書物は『小栗目録』の番号／書名／注記／冊数、『和装本目録』の請求番号／掲載頁数／注記、及び明木による補足からなる。

○『小栗目録』に記された書物に「漢籍」は無く、全て「国書」であるため、請求番号の「国」の字は省略した。

○『和装本目録』の書名表記が『小栗目録』と一致する場合は、書名を除く『和装本目録』の注記を記した。一致

しない場合は、『和装本目録』所載の書名表記を含めて記載してある。

○『小栗目録』末尾の「考古学の参考として保管の分」に記載の四件も含めた。

○明木による補足には、『小栗目録』の番号の付箋と図書館受入スタンプの有無を中心に、その他細かな事柄を記した。

○『和装本目録』に於ける国書の分類は以下のごとし。

1　総記　1　図書
2　宗教　1　神道・神社
4　歴史・地理　2　雑史
6　文学　7　和歌　2　歌集
7　芸術　3　音楽　1　雅楽
11　兵事　1　兵法
11　兵事　2　武具
11　兵事　3　刀剣
11　兵事　5　弓術
11　兵事　6　馬術
11　兵事　7　砲術
12　故実　1　有識故実

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 12 | 故実 | 2 | 武家故実 | 1 | 一般 | | | | |
| 12 | 故実 | 2 | 武家故実 | 3 | 犬追物 | | | | |
| 12 | 故実 | 2 | 武家故実 | 4 | 笠懸 | | | | |
| 12 | 故実 | 2 | 武家故実 | 5 | 弓道 | | | | |

| 小栗目録 | | | | 和装本目録 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 番号 | 書名 | 注記 | 冊数 | 請求番号 | | | 頁数 | 注記 |
| 92 | 犬追物部　笠懸部　流鏑馬部　目録 | 外八冊 | 九冊 | 1 | 1 | 4 | 1 | 小笠原古伝書目録　原合綴。平成三年、修理を施し三冊となす　半一冊 |
| 44 | 太宰府天満宮故実 | | 仮表紙五冊 | 2 | 1 | 12 | 5 | 十巻　貝原益軒（篤信）著　寛政三年写カ　欠巻八　存半九綴 |

補足

1-1-4『犬追物部　笠懸部流鏑馬部　目録』表紙に「第九三」の付箋。1-1-5『伊勢書目』、1-1-6『小笠原古伝書目録　犬追物之部』に付箋・スタンプ無し。1-1-7『犬追物笠懸伝書目録』は小栗目録は92だが現物の付箋は「第九三号」。小栗目録93の『探題御歌合』には付箋無し。『探題御歌合』と同様の修理。

その弐に「第四四号」の付箋、34.9.-1 のスタンプあり。

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 慶長小説三、元和小説一、元和寛永小説一、寛永小説一 | | 六冊 | 4 | 2 | | 9 | 23 | 明治写　＊寛永小説は国総未載　半六綴 | 表紙に「第一号」の付箋、34.9-1のスタンプあり。 |
| 93 | 探題御歌合 | 外約十冊 | 仮表紙十一冊 | 6 | 7 | 2 | 11 | 44 | 寛政十二年三月写　半一綴 | 付箋無し、34.9-1のスタンプあり。「挙母市立図書館」印と「豊田市図書館」印あり。裏打ち修理。この前後の10と12の『歌合』も同様の修理で34.9-1のスタンプあり。 |
| 19 | 三五要略琵琶按譜 | 上中下 | 三冊 | 7 | 3 | 1 | 1 | 68 | 存巻一一十　存大三冊 | 上冊表紙に「第一九号」の付箋、「三五要略琵琶按譜」の題箋あり。 |
| 47 | 多家秘譜 | | 六冊 | 7 | 3 | 1 | 3 | 68 | 十冊　江戸末期写　＊内訳は次の通り。順不詳　大十冊　詠曲幷今様譜、風俗歌秘譜、神楽拍子伝幷久止拍子之事、東遊諸儛歌秘譜幷和琴譜、大嘗会風俗哥儛新作例譜幷倭儛・田舞・同歌・久米舞等譜、胡飲酒儛秘譜、神楽譜、催馬楽秘譜、神楽笛秘譜、梁塵秘抄 | 『詠曲幷今様譜』表紙に「多家秘譜」の題箋、「第四七号」の付箋、34.9-1のスタンプあり。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 76 | 楽譜 | | 五冊 | 7 | 3 | 1 | | 69 | 『琵琶譜』に「第七六号」の付箋、34.9-1のスタンプあり。題箋無し。『和装本目録』には『琵琶譜』とあるが、内容は篳篥の仮名譜。 |
| 51 | 武門要鑑抄 | | 仮表紙四冊 | 11 | 1 | | 6 | 90 | 二十二巻　澤崎景美編カ　江戸後期写　存巻一・三一十・十三・十六・十八　存大十二綴 |
| 31 | 古兵秘聞書 | 外二冊 | 三冊 | 11 | 1 | | 8 | 90 | 古兵秘聞書　江戸末期写　大一冊 |
| 43 | 練卒訓語 | | 二冊 | 11 | 1 | | 9 | 91 | 八巻（和）総督監卒藉珀子著　江戸末期写　大二冊 |
| 7 | 武器図説 | | 十二冊 | 11 | 2 | | 5 | 91 | 伊勢貞春著　江戸末期写　＊内訳は次の通り（順不詳）　首巻一冊・甲冑類三冊・鞍鐙類一冊・剣刀類一冊・弓箭類三冊・旌旗類一冊・矛槍類一冊・雑類一冊　特大十三冊 |

表紙に「第五一号」の付箋。裏打ち修理。

表紙に「第三一号」の付箋、34.9-1のスタンプあり。

表紙に「第四三号」の付箋、34.9-1のスタンプあり。

表紙に「第七号」の付箋。11-2-5『武器図説』は『和装本目録』の記すとおり十三冊からなる。『小栗目録』7には「十二冊」とあるが、これと同じものか。『小栗目録』には同名42『武器図説』もあるが、「剣刀類、外三冊　仮表紙四冊」とあり、これとは別の書物か。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 58 | 雑記武具之部 | 外十九冊 | 二十冊 | 11 | 2 | | 7 | 91 | 雑記　江戸後期写<br>＊内訳は次の通り、（一）武具之部　（二）馬具之部　（三）弓矢之部 | 表紙に「第五八号」の付箋。 | | | | | | | |
| 67 | 兵具雑記 | 外十九冊 | 二十冊 | 11 | 2 | | 12 | 92 | 兵具雑記并幕星咒　江戸末期写　大一冊 | 表紙に「第六七号」の付箋、34.9.-1 のスタンプあり。 | | | | | | | |
| 26 | 兵家具足下着之図 | 外　彩色図入 | 六冊 | 11 | 2 | | 15 | 92 | 江戸末期写　＊彩色図のみ、文章なし | 表紙に「第二六号」の付箋。 | | | | | | | |
| 57 | 矢羽文考 | 外十二冊 | 十三冊 | 11 | 2 | | 31 | 93 | 伊勢貞丈著　江戸末期写　大一冊 | 表紙に「第五七号」の付箋。 | | | | | | | |
| 74 | 伊勢鞍鐙由来記 | 外十九冊 | 二十冊 | 11 | 2 | | 39 | 93 | 伊勢貞直著　江戸末期写　大一冊 | 表紙に「第七四号」の付箋、34.9.-1 のスタンプあり。 | | | | | | | |
| 22 | 刀剣問答 | 外十一冊 | 十二冊 | 11 | 3 | | 8 | 94 | 伊勢貞丈著　江戸末期写　大一冊 | 表紙に「第二二号」の付箋。 | | | | | | | |
| 14 | 美人草 | 上下 | 二冊 | 11 | 5 | | 1 | 95 | 二巻　多賀高忠著　安永九年　京　循古堂刊　大二冊 | 表紙に「第一四号」の付箋。11-5-2『美人草』、11-5-3『美人草（高忠聞書）』および11-5-4『異本美人草（異本高忠聞書）』に 34.9.-1 のスタンプあり。 | | | | | | | |
| 46 | 足蹈　各口伝 | 外四冊 | 五冊 | 11 | 5 | | 7 | 95 | 寛政十一年　永田憲章より内藤政峻への伝書　蔵印「衣城／侯印」＊「藤原政峻」の自署あり　大一冊 | 表紙に「第四六号」の付箋、34.9.-1 のスタンプあり。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 71 | 的之事 | 外九冊 | 十冊 | 11 | 5 | | 13 | 96 | 江戸末期写（安永三年伊勢貞丈書写本奥） | 表紙に「第七一号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。同名書11-5-12『的之事』は付箋・スタンプ無しで、『和装本目録』には「天保十年　松岡行義写　安藤右治（貴果）受　蔵印「安」大一冊」とある。同名書が一帙に収めてあるが、11-5-12は内藤家由来ではないか。11-5-13のみ内藤家由来か。小栗目録の「外九冊」は11-5-12を含むか。 |
| 69 | 弓材削秘伝書 | 外十九冊 | 二十冊 | 11 | 5 | | 15 | 96 | 武田信豊著　天保十年松岡行義写　安藤右治（貴果）受　蔵印「安」＊「上巻無之」とあり大一冊 | 表紙に「第六九号」の付箋、34.9.-1のスタンプ。同帙別本11-5-16には付箋・スタンプなし。 |
| 55 | 吉田流弓材之書 | 外十六冊 | 十七冊 | 11 | 5 | | 17 | 96 | 天保十年　松岡行義写　安藤右治（貴果）受　蔵印「安」大一冊 | 表紙に「第五五号」の付箋。 |
| 11 | 射学弓張月注書 | | 三冊 | 11 | 5 | | 21 | 96 | 三巻　天保十一年　高木正朝（応心斎）写　大三冊 | 表紙に「第一一号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。 |
| 48 | 矢数射手姓名 | 外 | 五冊 | 11 | 5 | | 24 | 96 | 矢数一射手姓名　天保十一年　高木正朝（応心齋）写　＊内容、慶長十一年—貞享三年　大一冊 | 表紙に「第四八号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。帙題箋『矢数一射手姓名』、表紙題箋『矢数射手姓名　全』、本文冒頭『矢数惣一射手姓名』に作る。同帙 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 20 | 35 | 40 | 10 | 53 | 5 | | 11 | 5 | | 29 | 97 | 98 |
| | 箙之考外七冊 | 奥秘箙書 | 聞書 | 弓法　私書 | 弓礼秘伝書 | 座右記 | | 11 | 5 | | 42 | 98 | 98 |
| | 彩色図絵入 | 貞丈著　外二冊 | 外二冊 | 上下 | 上下 | 一　上、一下、二、三四、五、六 | | | | | 43 | 98 | 98 |
| | 八冊 | 三冊 | 三冊 | 二冊 | 二冊 | 七冊 | | | | | 48 | 98 | 98 |
| | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | 11 | | | | | 40 | 97 | 97 |
| | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | | | | | 35 | 97 | 97 |
| | | | | | | | | | | | 29 | 97 | 97 |
| | 箙之考　小寺信正著　江戸末期写　大一冊 | 伊勢貞丈著　江戸末期写（宝暦十二年　伊勢貞丈本奥） | 江戸末期写　大一冊 | 二巻二冊　江戸末期写　大 | 小笠原持長著　江戸末期写（伊勢貞丈の按文あり）　大二冊 | 七巻　伊勢貞丈著　江戸末期写　欠巻五　存大七冊 | | | | | | | |
| に「舞楽拍子合」一枚、「振鉾」二枚、計三枚の雅楽曲目書き付けが挟まれている。 | 表紙に「第二〇号」の付箋、39.11.27のスタンプあり。 | 11‐5‐35の表紙に「第三五号」の付箋、および34.9-1と39.11.27の二つのスタンプあり。36と37に39.11.27のスタンプあり。 | 付箋・スタンプ無し。『和装本目録』3頁の同名書1‐4‐4『聞書』に「江戸末期写　蔵印「□賢／之印」＊前項（3『雑録』江戸末期写を指す。明木注）と同じ罫紙を用ふ　大一冊」とある。 | 表紙に「第一〇号」の付箋。 | 表紙に「第五三号」の付箋。 | 『一上』の表紙に「第五号」の付箋。各冊に34.9-1のスタンプあり。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 39 | 弓矢之部坤 | 外四冊 | 五冊 | 11 | 5 | | 75 | 99 | 弓矢之部二巻　江戸末期写　乾・半、坤・大二冊 | 『坤』の表紙に「第三九号」の付箋。『坤』に349-1のスタンプあり。『乾』は付箋・スタンプ無し。11-5-74『弓之部』に「挙母市立図書館」の印あり。 |
| 28 | 鞭諸説集 | 外四冊 | 五 | 11 | 6 | | 14 | 100 | 江戸後期写　蔵印「安賢／之印」半一冊 | 表紙に「第二八号」の付箋。 |
| 36 | 洋外礮全図 | 前編後編 | 二枚 | 11 | 7 | | 4 | 101 | 洋外礮具全図二巻　鏑木昭訳　前田又四郎画　嘉永七年　又新堂蔵版・刊　粘葉装　特大二帖 | 表紙に「第三六号」の付箋、前編後編ともに34.9.-1のスタンプあり。「礮」「礮」ともに「砲」の異体字。 |
| 21 | 舶砲新編 | | 十八冊 | 11 | 7 | | 6 | 101 | 舶砲新編十一巻・総目一巻・凡例一巻　（蘭）伊炎葛爾甸（カルテン）著　藤井三郎（質）訳　弘化四年凡例　写　欠　巻五　存大十九冊 | 付箋・スタンプ無し。 |
| 50 | 水干口伝 | 外九冊 | 仮表紙十冊 | 12 | 1 | | 7 | 102 | 水干装束之事（水干口伝）天保六年　常樹写　カ　半一綴 | 表紙に「第五〇号」の付箋。 |
| 41 | 類聚儀式 | | 二冊 | 12 | 1 | | 64 | 106 | 二巻　松岡義行著　江戸末期写　大二冊 | 表紙に「第四一号」の付箋。『観馬射宴』『賭弓』に34.9.-1のスタンプあり。『和装本目録』に同名書12-2-5-31『類聚儀式』125頁（大射　射遺　松岡行義著　江戸末期　大一冊）あり。 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 75 | 走衆故実 | 外十五冊 | 十六冊 | 12 | 1 | | 67 | 106 | 江戸末期写　大一冊 | 表紙に「第七一五号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。 |
| 34 | 鳴弦蠹目考 | 外二冊 | 三冊 | 12 | 1 | | 74 | 106 | 伊勢貞丈著　江戸末期写　蔵印「関氏図／書之記」　大一冊 | 表紙に「第三四号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。 |
| 17 | 撮壺集 | | 四冊 | 12 | 2 | 1 | 1 | 107 | 四巻　江戸中期写　＊国総は二巻一冊本のみを掲ぐ　大四冊 | 表紙に「第一七号」の付箋。 |
| 2 | 甲冑之部　天地人 | | 三冊 | 12 | 2 | 1 | 27 | 108 | 三巻　江戸後期写　＊紙片貼合 | 表紙に「第二号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。11-2-14にも『甲冑之部』あり。 |
| 18 | 義貞軍記 | 貞丈著　上下 | 二冊 | 12 | 2 | 1 | 30 | 109 | 二巻　江戸後期写　蔵印「伊藤氏／蔵書印」　大二冊 | 表紙に「第一八号」の付箋。 |
| 23 | 草鹿 | 外六冊 | 七冊 | 12 | 2 | 1 | 42 | 109 | 武田信豊著　江戸末期写（弘治二年　信豊本奥）　大一冊 | 表紙に「第二三号」の付箋。 |
| 4 | 軍礼故実抄 | 上中下 | 三冊 | 12 | 2 | 1 | 48 | 110 | 三巻　江戸後期写（永正八年　小八木忠勝書写本奥）　大三冊 | 表紙に「第四号」の付箋。 |
| 56 | 道照愚草 | 外十一冊 | 十二冊 | 12 | 2 | 1 | 61 | 111 | 伊勢貞久（道照）著　江戸末期写　大一冊 | 表紙に「第五六号」の付箋。 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 30 | 冬草 | 外四冊 | 五冊 | 12 | 2 | 1 | 81 | 112 | 四季草　同［伊勢貞丈著］　冬草　同［江戸後期写］（同［安永］七年　同［貞丈本奥］）同［蔵印「安斎」］　大一冊 | 表紙に「第三〇号」の付箋。『四季草』として一帙。 |
| 37 | 春草 | 上下 | 二冊 | 12 | 2 | 1 | 81 | 112 | 四季草　春草二巻　江戸後期写（安永五年貞丈本奥）蔵印「安齋藤」大二冊 | 表紙に「第三七号」の付箋。次項と合わせて『四季草』として一帙。 |
| 38 | 夏草序秋草書 | | 二冊 | 12 | 2 | 1 | 81 | 112 | 夏草大一冊　秋草三巻大一冊　冬草大一冊 | 『夏草序』表紙に「第三八号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。『秋草書』付箋無し、34.9.-1のスタンプあり。前項と合わせて『四季草』として一帙。 |
| 72 | 流鏑馬次第 | 外五冊　図一枚 | 七冊 | 12 | 2 | 1 | 89 | 112 | 小笠原持長著　天保十年　松岡行義写　安藤右治（貴果）受　蔵印「安」　大一冊 | 表紙に「第七二号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。同名書12-2-1-90『流鏑馬次第』（江戸末期写　永享八年　持長本奥）は付箋・スタンプ無し。 |
| 29 | 流鏑馬々場之図 | 外四枚 | 五枚 | 12 | 2 | 1 | 99 | 113 | 江戸後期写　蔵印「安」＊彩色図　大一鋪 | 表紙に「第二九号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。同名書12-2-1-98『流鏑馬々場之図』（江戸末期写　同　半長一鋪）は付箋無し、34.9.-1のスタンプあり。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 小笠原流　馬場取法用 | | 十五冊 | 12 | 2 | 1 | 101 | 113 | 〔小笠原流稽旧書〕十五巻　江戸末期写（安永三年　伊勢貞丈写本奥）　蔵印「安」（一）馬場取法用（二）－（四）射手之法（五）射手矢集（六）射手詞集（七）撿見喚次（八）射手具足（九）撿見装束（十）弓矢部集（十一）鞠行騰集（十二）馬具集（十三）撿見矢沙汰（十四）犬追物勝負名目（十五）日記集　半十五冊 | 第一冊表紙に「第八号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。（一）『馬場取法用』を筆頭にその他合計十五冊か。 |
| 9 | 犬追物方聞書抄 | 上下 | 二冊 | 12 | 2 | 3 | 7 | 116 | 二巻　伊勢宗五著　江戸末期写　大二冊 | 表紙に「第九号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。 |
| 62 | 見鏡 | 外五冊 | 六冊 | 12 | 2 | 3 | 23 | 117 | 犬追見鏡四巻　尼子長綱著　江戸末期写（明応二年　尼子長徳書写本奥）［見鏡はこれか？＝OK］ | 表紙に「第六二号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。 |
| 13 | 類鏡 | 貞丈著 | 三冊 | 12 | 2 | 3 | 33 | 117 | 四巻　伊勢貞丈著　江戸末期写　欠巻四　存特大三冊 | 表紙に「第一三号」の付箋。表紙題箋は『類鏡』、帙題箋は『犬追物類鏡』。12-2-3-33・34・35同帙。 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 犬追物類鏡 | | 二冊 | 12 | 2 | 3 | 34 | 117 | 同［伊勢貞丈著］ 同［江戸末期写］ 存一二 存大二冊 | 表紙に「第一五号」の付箋。表紙題箋は『犬追物類鏡』。12-2-3-33・34・35同帙。 |
| 13 | 犬追物類鏡 | 貞丈著 | 三冊 | 12 | 2 | 3 | 35 | 117 | 同［伊勢貞丈著］ 同［江戸末期写］（延享元年貞丈本奥） 存巻四 存特大一冊 | 付箋無し。表紙題箋は『犬追物類鏡』。12-2-3-33・34・35同帙。題箋は『犬追物類鏡』。恐らく33と35は同じ本の続き（第一三号）。題箋が類鏡・犬追物類鏡で異なるのみ。表紙題箋筆跡は類似。 |
| 32 | 犬追物図説 | 外一冊 | 二冊 | 12 | 2 | 3 | 36 | 118 | 伊勢貞丈編 江戸末期写 ＊彩色図入 大一冊 | 表紙に「第三二号」の付箋、34.9-1のスタンプあり。同名書12-2-3-37『犬追物図説』はスタンプ無し。双方同一の書物の写本。36に黒塗りあり、37ではその場所空白。 |
| 60 | 犬追物日記 | 外十九冊 | 二十冊 | 12 | 2 | 3 | 48 | 118 | 草根集 小笠原持長（浄元）著 江戸末期写（嘉吉元年 浄元本奥） 大一冊 | 表紙に「第六〇号」の付箋、34.9-1のスタンプあり。『和装本目録』では118頁に同名書10冊あり。12-2-3-43～52いずれも「大一冊」。同名書には34.9-1のスタンプあるものあり、『小栗目録』では外十九冊とあり。 |
| 61 | 犬追物記 | 外二十冊 | 二十一冊 | 12 | 2 | 3 | 60 | 119 | 犬追物政清記（犬追物記）小笠原誠清著 江戸末期写 大一冊 | 付箋無し、34.9-1のスタンプあり。『和装本目録』には『犬追物政清記（犬追物記）』とあり。 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45 | 犬追物秘記 | 上中下 | 外十九冊 | 三冊 | 12 | 2 | 3 | 69 | 119 | 犬追物之記（犬追物秘記）三巻　江戸末期写　＊表紙に「偽書也」とあり　半三冊 | 表紙に「第四五号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。『和装本目録』には『犬追物之記（犬追物秘記）』とあり。 |
| 68 | 公方御犬之記 | 外十九冊 | 二十冊 | 12 | 2 | 3 | 89 | 121 | 公方御犬之記（公方様御犬の時犬追物の記）二巻　伊勢貞丈編　江戸末期写　大一冊 | 表紙に「第六八号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。 |
| 59 | 吹上犬追物記 | 外十九冊 | 二十冊 | 12 | 2 | 3 | 92 | 121 | 吹上犬追物之記　大久保信知著　江戸末期写　＊天保十三年九月十四日執行　半一綴 | 表紙に「第五九号」の付箋。 |
| 64 | 笠懸聞書 | 外十二冊 | 十三冊 | 12 | 2 | 4 | 3 | 121 | 小笠原元長著　江戸末期写（文明十六年　元長本奥）＊題箋に「射鏡一二」とあり　大一冊 | 付箋無し、34.9.-1のスタンプあり。同名書12-2-4-4『笠懸聞書』（源道春著　江戸末期写（永正九年　道春本奥））と12-2-4-5『笠懸聞書』（二巻　小倉實澄著　江戸末期写）あり。いずれも大一冊。 |
| 78 | 雅輔装束抄 | 上下　笠懸全記一冊 | 三冊 | 12 | 2 | 4 | 8 | 121 | 笠懸全記　伊勢貞丈著　江戸末期写（宝暦八年　貞丈本奥）＊内題下に「古伝記類聚」とあり［9　同　同　同（同　）蔵印「松岡蔵書印」＊同］ | 付箋無し。『和装本目録』には『笠懸全記』とあり。 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 63 | 笠懸礼法 | 外十二冊 | 十三冊 | 12 | 2 | 4 | 18 | 122 | 小笠原持長著　江戸末期写（永享八年　持長本奥）　大一冊 | 表紙に「第六三号」の付箋、34.9.-1 のスタンプあり。 | |
| 24 | 遠笠懸射手出立之事　笠懸秘伝書 | | 三冊 | 12 | 2 | 4 | 22 | 122 | 二巻　江戸末期写　＊題箋に「笠懸秘伝書」、巻下の内題に「小笠懸由来之事」とあり　大二冊 | 表紙に「第二四号」の付箋。同帙書全てスタンプ無し。同名書 12-2-4-23『遠笠懸射手出立之事』（大二冊）と 12-2-4-24『遠笠懸射手出立之事』（江戸末期写、本書は分巻せず一巻とす　大一冊）あり。題箋・内題いずれも同じ。 | |
| 3 | 射御秘伝書 | 一巻より八巻まで | 八巻八冊 | 12 | 2 | 5 | 13 | 124 | 八巻　多賀高忠著　伊勢貞丈注　江戸末期写（寛政六年　伊勢貞春書写本奥）　大八冊 | 第三巻の表紙に「第三号」の付箋、各冊に 34.9.-1 のスタンプあり。 | |
| 6 | 射御秘伝書 | 一、二、三、四、五、八 | 六冊 | 12 | 2 | 5 | 14 | 124 | 同［多賀高忠著］　同［伊勢貞丈注］　同［江戸末期写］　＊題簽に「武田本」とあり　存巻六七存大六冊 | 表紙に「第六号」の付箋、34.9.-1 のスタンプあり。 | |
| 70 | 騎射秘抄注 | 外九冊 | 十冊 | 12 | 2 | 5 | 20 | 124 | 土岐某注　江戸末期写（安永七年　伊勢貞丈書写本奥）　大一冊 | 表紙に「第七〇号」の付箋、34.9.-1 のスタンプあり。 | |
| 54 | 伊勢守殿弓之聞書 | 外十二冊 | 十三冊 | 12 | 2 | 5 | 35 | 125 | 天保九年　松岡行義写　安藤右治（貴果）受蔵印「安」　大一冊 | 表紙に「第五四号」の付箋。 | |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 65 | 伊勢守殿弓之聞書 | 外十五冊 | 十六冊 | 12 | 2 | 5 | 36 | 125 | 江戸末期写　大一冊 | 表紙に「第六五号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。 |
| 12 | 弓馬　武田信豊 | 上中下 | 三冊 | 12 | 2 | 5 | 51 | 126 | 弓馬三巻　武田信豊著　江戸末期写（弘治二年信豊本奥） | 表紙に「第一二号」の付箋。 |
| 66 | 弓馬聞書 | 外十二冊 | 十三冊 | 12 | 2 | 5 | 55 | 126 | 同［堤右宗著］　江戸末期写 | 表紙に「第六六号」の付箋、34.9.-1のスタンプあり。同名書12-2-5-54『弓馬覚書』（天保九年　松岡行義写　安藤右治（貴果）受　蔵印「安」）あり。スタンプ無し。 |
| 27 | 弓馬之故実 | 伊勢貞順上下 | 二冊 | 12 | 2 | 5 | 58 | 126 | 弓馬故実三巻　伊勢貞順著　江戸末期写　大三冊 | 表紙に「第二七号」の付箋、上中下の内の「中」冊に34.9.-1のスタンプあり。同帙に上中下三冊あり。『小栗目録』は「上下二冊」とする。 |
| 25 | 矢開之事 | 外十五冊図四枚 | 十九 | 12 | 2 | 5 | 71 | 127 | 矢開事　小笠原元長伝　天保十年　松岡行義写　安藤右治（貴果）受　蔵印「安」　大一冊 | 表紙に「第二五号」の付箋。同帙12-2-5-72『矢開事』に34.9.-1のスタンプあり。 |

考古学の参考として保管の分

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 兵器雑考 | 一、二 | 二冊 | 11 | 2 | 6 | 91 | 巻一・二　寺井肇著　江戸末期写　大二冊 | |
| 4 | 武者器制 | | 一冊 | 12 | 2 | 1 | 65 | 111 | 武射器制　土井利往著　江戸末期写（寛政七年利往本奥）　大一冊 | 『小栗目録』には『武者器制』とあるが、おそらく『武射器制』の誤り。 |

以下は、『小栗目録』には番号と名前があるものの、同一の書名を有する書物を現在の書庫に見出せなかったものの一覧である。

| 小栗目録 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 番号 | 書名 | 注記 | 冊数 | 補足 |
| 16 | 軍器考補正 | 天地人 | 三冊 | |
| 33 | 管礼集 | 外四冊 | 五冊 | |
| 42 | 武器図説 | 剣刀類　外三冊 | 仮表紙四冊 | 11-2-5『武器図説』（『小栗目録』は7）があるが、これとは別の書物か。他に同名書は見当たらない。 |
| 49 | 南都堂射一件　京師堂射一件 | | 二袋 | |
| 52 | 御召御関船 | 外二冊 | 仮表紙三冊 | |
| 73 | 口伝日記 | 外九冊 | 十冊 | |
| 77 | 内藤惣系并庶流図 | | 一枚 | |
| 79 | 御本丸勤方 | | 三冊 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 80 | 上使留 | | 八冊 |
| 81 | 曲詣自饌 | | 四冊 |
| 82 | 席図 | | 一冊 |
| 83 | 拝謁周旋 | | 一冊 |
| 84 | 御奏者番系図 | | 一冊 |
| 85 | 太刀目録畳目 | | 一冊 |
| 86 | 御白書院　御黒書院　太刀并披露畳目 | | 一冊 |
| 87 | 御披露に関する記録 | | 九綴 |
| 88 | 御黒書院　御白書院　進上御刀畳目置所 | | 一折 |
| 89 | 内藤能登守系譜 | | 一巻 |
| 90 | 三十六斤地礮弾　云々 | | 一巻 |
| 91 | 甲冑図　始欠 | | 一巻 |
| 94 | 内藤家訓 | 外九冊 | 十冊 |
| 95 | 貞丈翁著述書大概　弓馬武器其外御見合相成可書大概　馬上三物書大概 | 外 | 三十三冊 |
| 96 | 雑書 | | 一束約十冊 |

考古学の参考として保管の分

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2 | 讃岐集古兵器図証 | 三冊 | |
| 3 | 肥後国集古兵器図証 | 二冊 | |

『小栗目録』の末尾、「96　雑書　一束約十冊」とある次の段には、以下のような書込がある。

以上合計七百十三冊、一月三十日図書館へ寄贈したるもので、全部写本で、其大部分が美濃紙大の大本である。

其外に一月八日に図書館へ寄贈した日記類

日記、留（師範留、伝達留、師範伝達留）

美濃紙四折綴帳の分

留　十七冊

日記　十四冊

縦長折本の分

留及日記七百六十七冊

合計七百九十八冊

小栗の冊数注記には冊・巻・枚・折・袋・綴など異なる単位が用いられているが、これを一旦無視して記された数字のみを合計すると七百十二となるので、小栗の「以上合計七百十三冊」とほぼ一致する。「約何冊」という表記になっているところもあるので誤差はやむを得まい。書物以外の文書に相当するものについては中央図書館ではなく郷土資料館に所蔵されている。これについても追って調査したい。

また続く4頁の1段目には次のようにある。

考古学の参考として保管の分

1　兵器雑考一・二　二冊

2　讃岐集古兵器図証　三冊

3　肥後国集古兵器図証　二冊

4　武者器制　一冊

計八冊

1の『兵器雑考』は『和装本目録』91頁記載の11-2-6『兵器雑考』巻一・二（寺井肇著　江戸末期写　大二冊）であると思われるので右の一覧に記載した。4の『武者器制』については、『和装本目録』111頁掲載の12-2-1-65『武射器制』（土井利往著　江戸末期写（寛政七年　利往本奥）大一冊）であろうと思われるので、これも右の一覧に記載した（「者」は恐らく誤記）。2と3については『和装本目録』に未見である。

以上の調査より、『小栗目録』に記載された書物の大半は確かに現在の中央図書館貴著書庫に収蔵されていることが確認できた。一部書庫内に未見のものはあるが、これは書物が失われたのか、もしくは小栗の書名の採り方が現在の『和装本目録』と異なるため検索できない可能性もある。今後さらに調査したいと考えている。

図書館のスタンプについては、そのほとんどが昭和三十四年（一九五九）九月一日のものである。『小栗目録』内では小栗目録番号20の『箙之考外』及び35の『奥秘箙書』の二件計四冊のみ、昭和三十九年（一九六四）十一月二十七日のスタンプが捺されている。より詳細には、

11-5-29『箙之考外』昭和39年11月27日のスタンプ　「第二〇号」の付箋

11-5-35『奥秘箙書』昭和39年11月27日と昭和34年9月1日のスタンプ「第三五号」の付箋
11-5-36『奥秘箙書』昭和39年11月27日のスタンプ
11-5-37『奥秘箙書』昭和39年11月27日のスタンプ

つまり、三冊ある『奥秘箙書』には昭和三十九年十一月二十七日のスタンプがあり、その内付箋の貼付のある一冊には昭和三十四年九月一日のスタンプも並んで捺されているということなのである。恐らく同名書が三冊あることが判明し、既に受入が行われた一冊に新たに三冊を加えて、昭和三十九年に再度受入が行われたということなのだろう。さらに『小栗目録』には掲載の無い雅楽理論書7-3-1-9『山鳥秘要抄（律呂）』にも昭和三九年十一月二十七日のスタンプがある。つまり内藤家から市が受領した旧蔵書は、基本的には昭和三十四年に図書館への受入が完了し、何らかの理由で昭和三十九年になって何冊かの受入が行われた、ということが考えられる。[7]『箙之考外』と『奥秘箙書』と一緒に収蔵された『律呂』も内藤家旧蔵であったことが推測できる根拠である。[8]

## 二、『小笠原古伝書目録』末尾の「追記」について

さて、右の『小栗目録』を補い、内藤家から市立図書館への書物の譲渡の状況を知るための今一つの資料が、右の一覧表にもその名が見える『小笠原古伝書目録』の末尾に加えられている「追記」である。『和装本目録』の一「総記」一「図書」の四から七までに次のようにある。

四　**犬追物部**　笠懸部　流鏑馬部目録　江戸末期写　半一冊

五　**伊勢書目**　藤原忠憲編　江戸末期写　半一冊

六　**小笠原古伝書目録**　犬追物之部　江戸末期写　半一冊

原合綴。平成三年、修理を施し三冊となす

＊昭和三十二年、内藤家より受領時の追記あり（本七百三十冊・図三百五十一・日記二百四十五）

七　〔**犬追物　笠懸伝書目録**〕　江戸末期写　半一冊

これによれば、この四～六は平成三年の修理の前までは一冊に綴じられていた。問題の追記は昭和三十二年（原文には西暦で一九五七年とある）のものなので、この時点ではまだ合冊の状態であった。この「追記」は合冊本の末尾に添付されたのであろう。また書き方からして四～七は一組のものだったと考えられる。四～七にはかなり多数の書込みや見せ消ちがあり、○や△の記号も書き込まれているので、恐らく挙母藩の時代からこれを用いて何度も蔵書の点検が行われていたものだと思われる。

この追記の翻刻は以下のごとくである。

追記

四冊の目録

この目録は整理の際に出たもので

参考として保存するものなり

この書かれているものは、無いものが多く
一部受取りたるものなり
受領いたしたるものは複写して
一先市に整理してあり
受領の際の立会者は左記三氏
渡邊釟吉
小栗鉄次郎
黒部三三
図書館長近藤三七三照合の上
教育委員会の名に於て受領せり
一九五七年二月十四日
市長長坂貞一氏より
謝礼金十五万円也支払う
代理人小栗鉄次郎氏は
内藤政光氏に送金手配
この時の立会者
渡邊釟吉
黒部三三

図書館長三七三その報告
を受け教育委員会に連絡
無事受領完了せり
内藤氏へは礼状を発送す
教委、市長、館長、三通
目録作成については
ＮＤＣ十進分類法により
二月十三日より実施せり
右は左記責任に於て
市長　長坂貞一
教育長　藤井栄
教育委員長　塚本藤重
教育委員　伊藤和三郎
鈴木仁
成瀬三千代
市立図書館長　近藤三七三
受領合計冊数
本七二〇冊

図三五一
日記二四五
一三一六

ここに出てくる長坂貞一は第三代挙母・豊田市長（在任一九五六～一九六四年。一九五九年に市名を挙母から豊田に変更）、また渡邊釟吉は初代挙母町長・挙母市長（在任一九四六～一九五五年。一九五一年に市制施行）である。黒部三三は、小学校長などを歴任し地元の教育に大きな功績のあった黒部善哉の息子で、小栗の義理の兄弟でもある（小栗の妻千鶴は黒部善哉の娘。ちなみに黒部家は挙母藩の重臣であった）。なお原文では当時の図書館長近藤三七三及び当時の教育長・教育委員長・教育委員の氏名に若干文字の不鮮明なところがあったが、豊田市の資料で確認済みである。(9)

冒頭の「四冊」とは、右の『和装本目録』の四～七を指す。「この目録は整理の際に出たもの」とあるが、これは当時の内藤家当主の内藤政光が、挙母にあった倉庫整理について任せた旨の「委嘱書」（昭和三十一年五月二十六日付）を小栗に出し、これにより小栗が行った一連の蔵書整理を指すものと思われる。「この書かれているものは無いものが多く」とあるが、現在確かめたところでも、これら目録に所載の書物には書庫に所蔵の無いものが多い。四冊の目録の内「受領いたしたるもの」については「複写して一先市に整理」したわけだが、その目録こそ右の『小栗目録』あるいはその予備や下書きだったのであろう。現在の貴重書庫の蔵書の、表紙に貼付された付箋の番号が『小栗目録』の番号と一致していること、さらに『小栗目録』には「内藤家送付のもの」と書いてあることからすれば、この時点で市が内藤家から受領した書物の正式な目録に、一旦はなったことは確かであろう。

続いて十五万円の謝礼金が市から内藤家へ支払われたこと等が記され、さらに「目録作成についてはＮＤＣ十進分類法により二月十三日より実施せり」とある。『小栗目録』を見るに、その配列は十進分類法には全くなっていない。してみれば、ここに言う「目録作成」とは『小栗目録』のことではなく、新たに図書館にて作成されたものを指すと思われる。この時点で作られた十進分類による内藤家旧蔵書目録の実物は未見である。恐らくそれは現在の『和装本目録』の基礎資料として使われたことは十分考えられるが、冊数としてはこの時点の内藤家旧蔵書は『和装本目録』収録の書物の極一部である。冊数については、この「追記」には、

七二〇冊　図三五一　日記二四五　計一三一六

とある。一方『小栗目録』によれば、

七一三冊　留一七冊　日記一四冊　縦長折本七六七冊　計一五一一冊

である。ところが、『豊田市の教育』（前掲）には、

昭和三十年……（中略）……八月藩蔵書（挙母藩主内藤政光氏）の一括寄贈（三二〇〇冊）を受け、……

とある。『小栗目録』は和書のみで漢籍を含まない。『豊田市の教育』が挙げる数字は漢籍その他文書等を含んだ数字であろう。すると、書物の数え方による誤差はあるが、『小栗目録』と「追記」の挙げる書物七百冊余、というのがこの時市が受領した挙母藩旧蔵和書の実情だと考えられる。

以上、中央図書館の挙母藩旧蔵書受領の経緯を示す『小栗目録』と『小笠原古伝書目録』「追記」を照らし合わせることにより、昭和三十二年の時点で図書館が受入れた和書が七百余冊であったことが確かめられ、さらに「追記」の記述に『小栗目録』を位置づけることで、これに関係した人々の名と蔵書受領の経緯が明らかになった。『小

栗目録』と現在の中央図書館の蔵書を照合する過程で、これらの書物に興味深い事柄が幾つか見つかった。特に、『和装本目録』には収録されていないにもかかわらず、『矢数射手姓名』の帙に一緒に挟み込まれていた音楽関連の資料を見出したことは幸いであった。そこには『山鳥秘要抄（律呂）』の撰者安倍季良の名前が見えて興味深い。『小栗目録』には『矢数射手姓名 外』とあるので、この「外」がこの資料を指すのかも知れない。さらに『小栗目録』では47が『多家秘譜』で、続く48にこの『矢数射手姓名』があるので、元々『多家秘譜』と並んで配架されていた可能性も否定できない。これについてはまた稿を改めて論じてみたいと考えている。

**注**

（1）明木茂夫編著『豊田市中央図書館の江戸期学芸書　—雅楽資料『山鳥秘要抄』とその周辺—』（共著）中京大学先端共同研究機構文化科学研究所叢書23、汲古書院二〇二二。

（2）挙母市から豊田市に変更されたのが昭和三十四年（一九五九）なので、当時は挙母市立図書館である。ちなみに当時の図書館は喜多町の旧愛知県蚕業取締所第九支所（後の「近代の産業とくらし発見館」、二〇二三年三月閉館）にあった。

（3）詳細については前掲書所収、拙論「豊田市中央図書館貴重書庫所蔵の江戸期楽書　—特に『律呂』（山鳥秘要抄）をめぐって—」、五「小栗鉄次郎編『挙母内藤家蔵書目録』に記された楽書」を参照されたい。

（4）太田正弘編『豊田市立図書館和装本目録』豊田市立図書館、一九九二。

（5）現在豊田市は新たな博物館を建設中である。完成後はそちらに収蔵されることになる。

（6）なお、小栗鉄次郎の事蹟については、豊田市郷土資料館編『小栗家民具調査報告書　小栗鉄次郎・生家　そ

の暮らしの道具たち』（豊田市二〇二一）所収【付編1】、豊田市文化財担当専門監森泰通氏の「小栗鉄次郎が残したもの」に詳しい。また前掲拙著も参照されたい。

（7）楽書の内、内藤家由来ではない7-3-1-5『琴琵琶之書』（「池田貫一氏寄贈」とある）には昭和三十六年十一月一日のスタンプがある。

（8）前掲拙著36～37頁参照。

（9）図書館長名は豊田市図書館管理課の資料により、教育委員名は『豊田市教育委員会30周年記念　豊田市の教育』（豊田市教育委員会一九八一）によりそれぞれ確認した。

本稿の作成に際しては豊田市生涯活躍部専門監（文化財担当）森泰通氏、同市市史編纂室伊藤智子氏に多くのご教示を賜った。また豊田市役所教育政策課、図書館管理課の各位にもお忙しい中多大なご助力を賜った。この場を借りて篤く御礼申し上げる。